

私の身近でも、「姿を消した」か「消えつつある」昆虫が44種もいるわけですが、それらはいずれも私が調査・観察した都市に点在する里山、里地、公園などのせまいエリアに生息しているものにすぎません。ですから、もっと範囲を広げれば、おそろしい結果が出る可能性は否定できないのではないのでしょうか。また、私の調査・観察は神奈川県が中心なので、地方によってはちがう観察結果となるかもしれません。

消えつつある昆虫たちを、1日でも早く「地球の豊かなゆりかご」へもどしてやることは、知恵のある人間の義務でもあり、それこそが、地球環境を守り、我々人間そのものを守る唯一の道につながるものと確信しています。その第一歩として、近くにあっても利用することの多い公園を舞台に考えてみたいと思ひ、著したのが本書です。なお、本書の記述は私の調査・観察にもとづいたものです。

まずは、本書で身近な昆虫たちの不思議で神秘的な生態・生活史を存分にお楽しみください。これらは以前はどこにでもいて、ふつうに見られたものたちです。

そして、ぜひ本書を片手に、近くの公園や緑地などにお出かけください。日ごろ遊んでいる公園などで、ちょっと気をつけて観察してみてください。そこにはもしかしたら本書で紹介した「消えつつある」昆虫たちのめくるめく世界が展開されているかもしれません。そしてこれは何も公園に限ったことではなく、庭の1本の木、雑草からも生き物の世界は広がっているのです。

その昆虫たちが生きつづけられるようにするためにはどうしたらよいのか。もしまったく見ることができなかつたとしたら、どうしたらそれらがもどって来てくれるのか。豊かな自然環境とは何か。ほんの少し心を寄せるだけで虫たちの不思議な世界の存在が感じられるでしょう。

